

## 理事会だより ～第2回～

理事会は、通常総会で議決された18人の理事と2人の監事によって構成され、一期2年の任期で、学会内のいろいろな仕事を分担して受け持っています。理事会はどんなことを行っているのか、会員のみなさんにもご理解いただけるように、今回、「理事会だより」というコーナーを企画しました。

掲載は不定期となりますが、理事がそれぞれの担当内容について、わかりやすく説明します。ぜひお読みいただき、学会活動に対して興味をもっていただけたら大変幸いです。どうぞよろしくお願いします。

### ★学会の年会とは

学会の理事には、プラズマ・核融合学会の年会を担当する人たちがいます。本来、年会は新たな研究成果が発表される場所なので、それだけで会員の皆さんが興味をもって参集して下さるわけですが、学会は皆さん一般会員の会費だけでなく、賛助会員さんからの会費に加えて、年会参加費と、企業さん方の展示出展費をいただいてやりくりしています。ですから、少しでも魅力のある年会にして盛会にしようと、新たな企画を考え、導入していきます。

第37回(2020年)、第38回(2021年)は、感染症のためオンラインでの開催になってしまいましたが、やはり学会の楽しみは、開催校を訪問する、開催校の立地する都市に行ってみることにあるように思います。懇親会ともなればご当地グルメに舌鼓を打ち、学会が終わった後は帰りの途中で観光地を巡り、忙しい日常業務で疲れた会員のリフレッシュに大きく寄与していることでしょう。

さて、年会担当理事は、現地校に組織される現地実行委員会と二人三脚で年会全体の運営案を練ることになります。具体的な会場の間取りを確認し、会場でのひとの流れを想定して展示を見てもらいやすいように計画します。

特に重要なのは、時間割です。基礎・応用・核融合プラズマ・核融合炉工学の各領域において、同じ指向性のセッションが時間的にバッティングしないようにアレンジして、時間割を組み上げます。時としてこの作業は大変に難しくなる場合があります。ところが、年会担当の立場としては自分の専門とは異なる場合も多く、超多忙なプログラム担当の先生方をお願いするしかないという状況に陥ります。

時間割を作成した後は、座長の選定、そして若手学会発表賞の審査員の依頼など、年会本番に向けて様々な調整をお願いするのも、年会担当理事の重要な仕事です。学会の最重要イベントである年会準備は、その年度の会合が終了するとすぐに、次年度会合の委員顔合わせが行われるほど「年中行われている」業務です。

第38回(2021年)年会では、懇親会場の下見などの楽しい(美味しい?)ことは残念ながらありませんでしたが、会員皆さんのおかげで毎年のが成功しているのだと、学会に協力して下さっている皆さんの善意をととてもありがたく感じました。

第38回年会運営委員会委員長 和田 元